
バカとテストと召喚獣～ボクラノ学園生活～

ゆーり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣くボクラノ学園生活く

【Nコード】

N6741Z

【作者名】

ゆーり

【あらすじ】

明久たちが繰り広げる、ドタバタラブコメディー♪
ときどきシリアスになったりするかもだけど、基本はギャグです。
彼等に終わりはあるのか!?

設定（前書き）

明久には婚約者がいた。

彼女がもたらすものは幸福か、それとも絶望か・・・。

以下、あらすじより抜粋

明久たちが繰り広げる、ドタバタラブコメディー。

ときどきシリアスになったりするかもだけど、基本はギャグです。

設定

設定

佐崎悠里

明久の婚約者（親同士が決めたもの）で、中学校3年間はアメリカにいた。

高校生になって、日本に帰ってくる。

明久のことが好きだか、明久には気付いてもらえない。

そのため、友達以上恋人未満のようなもの。

明久以外の人には全員敬語だが、特別の枠に入ると口調が変わる。外見は翔子を明るくした感じ、中身はツンデレ。

一ノ瀬桜咲

明久の中学からの親友、はたから見ればいちゃつくカップル（本人等は自覚なし）。

恋愛については明久並みの鈍感。

悠里が来てから、明久に対する態度に変化が見られる。

学力は明久と変わらない。

外見は秀吉の髪を少し伸ばした感じの可愛い系、中身は周りから一歩ひいたような感じ。

御堂和真

明久の高校からの友達。年上の彼女がいる。
なんでもこなせる器用さん。

吉井明久

原作よりも頭が良く、喧嘩も強い。
悠里の婚約者だが恋愛感情はなく、桜咲にも今のところ恋愛感情

はないもよう。

だが、桜咲が男と話していると嫉妬しているようなところがある。
和馬には心を開いている。

また、小学校と高校になってからの性格に違いがある。

桜咲の家族

太一

桜咲の弟で中学生。

結構ませているけど、家族との仲は良好。

明久のことは本当のお兄ちゃんみたいに思っている。

口癖は「バカばっか・・・」

お母さん・お父さん

桜咲の両親。実はだいぶ若い。

明久のことは桜咲の未来の夫だと宣言しており、いつもお義母さ

ん・お義父さんって

呼んで♪と明久を困らせる。

設定（後書き）

ありがとうございました。

プロローグ（前書き）

いちのせきくら
一ノ瀬桜咲

どんな口調にすればいいのかな。
むずかしい・・・

プロローグ

「明久、早くしないと遅刻しちゃうよ。」

「ごめん、もうちょっと待って！」

吉井明久、寝坊しました。

そんな僕を急かしているのは、一ノ瀬桜咲。大切な親友です。

「いいかげん、早くしないとおいてくよ！」

「今いくよ。」

いっとくけど寝坊したのは僕のせいじゃないんだよ。

昨日買ったゲームが面白くてやめられなかったせいだ……。

「もう、今日から2年生なんだよ？ 一目目から遅刻するなんてありえない。」

「ごめんってば。なんならおんぶして走っていいこうか？」

「……何言ってるの。ヘンタイ？」

今一瞬、桜咲の動きがとまった。

てゆうか、なんでおんぶで変態になるのかわかんない。

「ごめん、冗談だよ。」

「んな、冗談言うな。反応に困るからね！」

「あはは、早く学校行こ？」

「お前が言うな!!」

ちなみに今、僕らはちゃんと歩いてる。

僕らが通う学校は、坂を上ったところにある。
これがまた、結構きつい。

そんなこんなで学校にはついたものの・・・

「あちゃゝ、鉄人いるよ。」

校門の前で仁王立ちしているのは、西村宗一^{てつじん}。
生活指導の鬼として恐れられる先生だ。
まあ、いい先生だとは思うけどね・・・。

「お前らっ、遅刻だぞ!!!!」

『すみません、鉄人。』

あっ、ハモった。

「本当に、お前らは・・・。」

そのまま鉄人は口を閉ざしてしまった。
なんだろうね？

「ほれっ、結果だ。2人ともAクラスだ。」

『ありがとうございます。』

僕らの通う文月学園は、2年生から振り分け試験というものでクラスを分ける。

AとFクラスまであり、簡単にいえばAクラスは頭がすごくいい人の集まりで、

Fクラスはすごくバカが集まる。

設備もクラスによって違うらしく、噂ではFクラスは卓袱台に座布団。

それに窓も黒板もおんぼろだと聞いた。

それが嫌で、僕は春休みに猛勉強した。

そうじゃなきゃ、1年の頃の成績だとFクラス決定だったからね。毎日寝る間も惜しんで勉強して、本当によかった。

「よかったね♪」

「うん！よかったよ。」

毎日寝る間も惜しんで勉強して、本当によかった。

そんな僕らは知らない。

Fクラスが本当に、噂どりのおんぼろ教室だということを・・・。

僕は知らない。

Fクラスに、彼女がいることを・・。

プロローグ2

Fクラス・・・そこは噂どりのひどい教室だった。
足の折れた卓袱台、腐った畳など、廃屋そのもの。

そんなFクラスは今、自己紹介をしていた。
たくさんいるメンバーの中でひととき目立っている少女。

「佐々木悠里です。中学校3年間アメリカに住んでいましたが、英語は苦手です。

小学校まではこの近くに住んでいました。突然ですが、召喚戦争しませんか？」

そう言い放つと、平然と席に座る彼女。

それに続いたように赤い髪の少年が呆然とする全員（悠里をのぞく）に言う。

「Fクラス代表、坂元雄二だ。

早速だがみんなに聞きたい、このクラスに不満はないか？」

それに対し、クラスの大半がこう言った。

『大アリじゃああああ！』

「そうだろうな。そこで、俺たちはAクラス召喚戦争をしたいと思う。

勝ってAクラスの設備を俺たちのものにしようじゃないか。

ちなみにAクラスには学園一の美少女、一ノ瀬桜咲がいるそう

だ。

全員準備はいいか？」

『おおおお！』

このとき、クラス（のおもに男子）のころはひとつになった。

そして・・・

「まさかAクラスにいるなんて思ってもなかったわ・・・明久。
それにしても一ノ瀬桜咲ってどんな子なのかしらね。」

そう言って不敵に笑う悠里。

彼女の目的はなんなのか。

ある意味最強なFクラス。

彼らはAクラスに勝つことができるのか。

「俺たちは勝てる、絶対にな！！！！」

プロローグ2（後書き）

ちなみに和真は明久たちと同じAクラスです。

第一話

Aクラスについた。

今の僕の心は、驚きでいっぱいです。

個人用の冷蔵庫、エアコン、ノートパソコンなど、まるで家のような空間ができています。

・・・もしかしたら家よりすごいかもしれない。

ふと、桜咲を見てみると、同じように驚いているのか口を開けてポカンとしている。

「桜咲、口開いてるよ。」

「えっ、ほんと？」

「うん。」

「うー、気を付けてるつもりなんだけどな・・・。」

「しょうがないよ、今のは。」

桜咲は喋ったりしない時に口を開いちやう癖がある。

本人は直そうと必死なんだけど・・・。そのことで男子に笑われたことがある。

そのせいでいろんな子にからかわれて傷ついたことがある。

今思えば、好きな子ほどいじめちゃうっていうのだったのかもしれないけどね。

ちなみにそいつはあとでボコボコにしたよ♪

「明久、桜咲。ドアの前でつつ立ってないで教室に入ったら?」

『あつ、優子。おはよう。』

僕らに話しかけてきたのは、木下優子。

中学校からの友達だ。最初はあまり仲良くなかったけど、いろいろあって

今ではよく遊んだりするくらいの友達だ。

他にも優子の双子の弟の秀吉やムツリーにこと康太も同じ中学で高校も一緒の友達だ。

秀吉と康太はたぶんFクラスかな?

秀吉は演劇一筋だし、康太は保健体育にしか興味がないからね。

「みなさん、席についてください。自己紹介を始めます。

私が担任の高橋です。1年間、よろしくお願いします。

まずは、学年代表の霧島さんから一言を。」

担任は高橋先生か。ちょっと苦手なんでよね・・・。

「・・・霧島翔子。よろしく・・・。」

やっぱり学年代表は、霧島さんだね。

すんごく頭が良くて、新入生代表でも挨拶してたっけ。

・・・なんかめっちゃくちや見られてる気がするけど、気のせいだよね?

「御堂和真です。彼女はいます。

手え出したりしたら瞬殺するんで、よろしくお願いします。」

和真、同じクラスだったんだ。ていうか、怖すぎるよ……。

和真も同じ中学だった。

頭もよくて喧嘩も強いから、いろいろ教えてもらったんだよね。

「木下優子よ。1年間よろしく。」

次は桜咲かな？

「一ノ瀬桜咲です。あまり人と関わるのは好きじゃないですが、1年間よろしくお願いします。」

みんな普通の反応だ。もっとすごいと思ってたけど、これがFクラスだったらどうなってただろう。

……なんか今、すごい気持ち悪くなった。

「明久、大丈夫？次、明久だよ。」

「うん、大丈夫だよ。」

よしっ、ちゃんとしなきゃね！

「吉井明久です。みなさんについていけるよう頑張ります。」

ふう、大丈夫だね？

「それでは以上で自己紹介を終わります。1限目が始まるまでは各自、自由にしていて

下さい。設備に不備がある場合はその間に私のところまで言い

に来てください。

また、これから召喚戦争が何度かあるかもしれませんが、決して負けないように。」

召喚戦争か・・・雄二は何か仕掛けてきそうだな。気を付けないと・・・。

何事もなく終わればいいけど、何か嫌な予感がするんだよね。

「明久、優子たちのところ行こう？」

「うん、そうだね。」

まあ、今はいつか。

その時になったら考えよう。桜咲たちにも相談できるし！！

第一話（後書き）

次回からバカテスをする予定です。

バカテスト

バカテスト

第一問

問 次の問いに答えなさい

硫酸銅五水和物を塩化バリウム水溶液にくわえて加熱すると、何
が生成されるのかを

答えなさい。但し、硫酸銅五水和物と塩化バリウム水溶液はすべ
て反応したものとする。

木下優子・御堂和真の答え

『硫酸バリウム・塩化銅・水』

教師のコメント

正解です。こちらの反応は化学式で表すと



となります。ですが、その前に硫酸銅五水和物を水溶液に加える
ことにより、



という反応が起こっています。その為、生成されるものの中には
水も含まれるという
こととなります。

吉井明久・一ノ瀬桜咲

『硫酸バリウム・塩化銅』

教師のコメント

二人とも惜しいですね。これから頑張ってください。
しっかりと復習しましょう。

佐崎悠里

『デミグラスソース』

教師のコメント

・・・・・・・・・・・・・・・・？

第二問

問 以下の空欄に当てはまる語句を答えなさい

ミケランジェロはダビデ像を制作した『彫刻家』や、システイー
ナ礼拝堂の天井画を

描いた《画家》としても有名だが、他にも□□□□という顔を持
つ、多才な人物であった。

吉井明久・一ノ瀬桜咲の答え

『建築家』

教師のコメント

正解です。ミケランジェロの代表的な建物としては、サンピエト
ロ大聖堂や

サンロレンツォ教会図書館などが挙げられます。あわせて覚えて
おくといいでしょう。

土屋康太の答え

『家では家庭的なお父さん』

教師のコメント

間違えではありますが、こういう答えは好きですね。

彫刻家や画家として有名でありながら、子供に優しいお父さん。
なんとも素晴らしい人物でしょうか。

佐崎悠里

『ジョン・F・ケネディの暗殺者』

教師のコメント

家庭的なお父さんを返して下さい。

そして・・・

Bクラス VS Fクラス 勝者 Fクラス

「もうすぐだぜ・・・一ノ瀬桜咲」

バカテスト（後書き）

次からAクラス戦に入ります。

第二話

Fクラス

「次が俺たちの最後の戦いになるだろう。ここまで来れたのはお前らのおかげだ。

絶対に勝つためにもAクラス戦は一騎打ちをしたいと思う。」

「それはどういうことでしょうか？Aクラスに対しての一騎打ちは無謀すぎると思います。

何か策があるとしても万が一の場合一騎打ちはあとがありません。

一騎打ちだけはやめるべきです。」

「・・・確かに。負けた場合、今までのことがパアになるのは防ぐべき・・・。」

「なら、5人ずつというのはどうじゃ？クラスで代表を決めるようにするのじゃ。」

「それがいいな。じゃあAクラス代表に話に行くか・・・。」

Aクラス

「ということで、FクラスはAクラスに召喚戦争を挑む。それでもいいか？」

雄二がFクラス代表として、Fクラスの人を何人か連れてやってきた。

Fクラスと召喚戦争が始まるみたいだ。
特別ルールみたいだけど霧島さんは受け入れるのかな？

「・・・わかった。・・・明日の午後から・・・。」

どうやらやるみたいだね。順番はどうするんだろう。

そう思ってたんだけど・・・

ブルっ

・
なんだかさっきからすごい殺気みたいなものを感じるんだけど・

「明久、なんだかじつと見られてる気がするんだけど・・・ほらあの人。」

「桜咲もかあ、あんな子去年からいたっけ？」

「ううん、知らない。でも殺気とは別に明久のことずっと見てない?。」

なんだか知ってる気はするんだけど・・・思い出せないな。

「なんとなく知ってる気がするんだけどな・・・。」

そう言ったら桜咲はむくれちゃった。

そしてぼそっと、何かをつぶやいたみたいだけど僕には聞こえなかった。

「ごめんってば、たぶん僕の勘違いだと思うよ。ねっ？」

「別に謝る必要なんかないよ……。」

桜咲はやっぱ何か怒ってるみたいだ。

あとで和真にでも聞いてみようかな？

そんなことをしてたら、

「それじゃあ、戻るか……おいっ明久！お前、俺と戦えよな！」

そう言って雄二は出て行ってしまった。でもなんで僕となんだろう？

「明久は鈍感だから大変よ？」

優子？誰に向かって言ってるんだよ。

それに僕のどこが鈍感なんだよ。

「何言ってるの明久は鈍感だよ。」

桜咲まで……ていうか僕の心、読んだな。

「だってダダ漏れだもん。」

「えっ、そんなに？」

「うん！」

やばいなあ、気を付けないと。

ちなみに桜咲が僕の心を読めるように、僕も桜咲の心が読める。

お互いなんでかはわかんないけどね？

とりあえず・・・

「そういうことで、霧島さん。明日の召喚戦争、雄二とやらせてもらうけどいいかな？」

霧島さんはコクッと頷いてくれた。よかった、嫌われてるわけじゃないみたい。

「じゃあ、今日はもう解散ね。その前に明日召喚戦争に出る人だけ決めましょうか。」

「僕は決定だね。」

そうすると桜咲もかな？

「明久が出るなら私も出るよ。」

やっぱりね。それとあっちは康太を出すだろうから、

「俺も出る。」

うん、和真もだ。康太と戦えるのは和真くらいだもんね。

「私も出させてもらうわ。」

優子だ・・・あとは代表の霧島さんで決定だね。

みんなもそれでいいみたいだし・・・

「じゃあ全員、解散ね。」

やっと一日が終わった、今日は結構疲れたかも。早く帰ろう。

「桜咲、帰ろうか？」

「うん、今日は結構疲れたもんね♪」

カバンもちゃんと片付けたし、よしっ。

『じゃあ、優子、和真。また明日ね。』

「うん、またな。」

「また明日、遅刻はしないようにね。」

自然と手が触れる・・・そして繋がった。

いつもこんな感じだ。ふたりきりになると、なんだかひつつきむしになる。

そんなところが可愛いんだけどね♪

そしてそんなふたりをよそに

「なによ、あれ・・・。一ノ瀬桜咲、絶対許さないわよ。」
一人の少女が暴走し始めていた・・・。

第二話（後書き）

召喚戦争、上手くいけないかもしれません。

とりあえず、和真と桜咲の腕輪の能力と名前を募集します。

よろしくお願いします。

もしなかったら、そのままいこうと思っています。

第三話（前書き）

お久しぶりです。

その理由はあとがきで・・・

新キャラ登場！

第三話

桜咲と手をつないで帰る。

別に僕らは付き合ってるわけじゃあない。」

桜咲はとても大切だけど、それが恋愛感情なのかはわからない。ただ、あの時から桜咲は僕の大切な子だ。

「明久、今日も家でご飯食べてってだって。お母さんから連絡きた。」

「ふーん、そっか。じゃあ今日は僕が夕御飯つくろっかな。」

高校になってから一人暮らしを始めた僕に桜咲の家族は世話を焼いてくれている。

朝御飯も夕御飯もご馳走になってるし、ほとんどを桜の家で過ごしている気がするな。

「なら、お母さんに連絡しとくね。買い物もいく?」

「うん、そうしょっか。なんか食べたいのある?」

自分で言うのもなんだけど、料理は全般得意だ。多分なんでも作れると思う。

「えーと・・・ロールキャベツとホワイトシチューかな、あとデザートも欲しいかも♪」

「サラダはポテトサラダだね。デザートはリンゴのソルベでいいかな。」

「うん♪それじゃあ買いに行こう。」

（買い物終了）

桜の家に着いた。桜の家は僕が住んでるマンションの隣にある。小学校は一緒じゃないの？と思う人もいるだろうけど桜咲は中学のときに

引っ越してきたから小学校は違うんだ。

『おかえり、明久くん・桜咲。』『おかえり、明久兄ちゃん・桜咲姉ちゃん。』

桜咲のお父さんとお母さん、桜咲の弟・太一が迎えてくれた。

『ただいま♪』

みんな優しくて暖かい人たちだ。

太一なんか本当の弟みたいで、いつも一緒にゲームをしたりする。

とりあえず僕が今することは

「それじゃあ、キッチン借りますね。」

「ええ、どうぞ。それよりもまだ敬語なの？（グスッ）」

「そんな、お義父さんは悲しいよ・・・（グスッ）」

あの、あなたお義父さんじゃないし・・・二人して泣かれると困るよ。

桜咲あ、助けて!!

そう思って桜咲を見ると、顔を赤らめてた。

なんでだよ!!!

『お義父さん（お義母さん）って呼んでもいいんだよ（いいのよ）』

ちよっ、まって、くっつかないで

そういえば、た、太一は？

「ほんと、バカばっか・・・でも早く明久兄ちゃんと桜咲姉ちゃん
んが
結婚してくれればいいのに。」

えっ、今の何!?

第三話（後書き）

おそかった理由・・・一言で言えば浮気です。

どうしても書きたくなったお話があつて・・・。

衝動書きしてました。

原作をお知りの方で、読んでもいいって方は見てみて下さい。

第4話

「ただいま料理中」

あのあと我にかえってくれた桜咲によって、僕は救われた。

今はご飯を作ってる。隣には桜咲がいてつたないけどポテトサラダを作ってるよ。

桜咲は料理があんまり得意じゃないけど、いつも手伝ってくれる。エプロン姿がとっても似合ってたて可愛い♪

「明久、これでいいかな？」

「うーん、もうちょつと塩コショウをいれてもいいんじゃないかな。」

「そっか、わかった。」

よし、さっと作って早く食べなきゃ。
だいぶ時間がないからね。

今の時間は7時。家に着いたのが6時くらいだったから、結構桜咲のお母さんたちに絡まれてたことがわかる。

「ふう、出来たかな？」

「うん！すごく美味しそうだね。」

料理を運ぶのは太一達だ。

その間にできちゃう洗い物は済ませちゃう。

夕御飯中

『ごちそうさまでした。』

「明久兄ちゃん、美味しかったよ。」

『明久くん、とっても美味しかった♪』

「明久、ありがとう。」

みんなが喜んでくれる。僕はこれがすごく好きだ。
今度はもっと美味しいものを作ろうって思える。

時計を見ると、もう8時だ。

「そろそろ帰らなきゃ。ありがとうございました。」

片付けをして、帰る準備をする。

すると桜咲が明日の召喚戦争のために一緒に勉強をしようと言ってきた。

そっか、勉強しなきゃね。

桜咲にいいよというと、太一が今日は泊まってけばって言うてきた。

・・・普通、高校生の男子を大事なお姉ちゃんと一緒の家に泊まらせるかな？

なーんて思いつついつも泊まっちゃうんだよね。

第4話（後書き）

お久しぶりです。

次は今度こそ召喚戦争編です。

受験のため、更新ははやくても2月中旬になると思います。
いつも見てくださる方には、大変ご迷惑をかけますがよろしく
お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6741z/>

バカとテストと召喚獣～ボクラノ学園生活～

2012年1月13日18時52分発行